

厚木市郷土資料館NEWS 227

(仮称) あつぎ郷土資料館建設 準備報告④

資料移転の準備も進んでいます



◀ 県指定文化財の登山古墳の埴輪を丁寧に梱包

(仮称) あつぎ郷土資料館の工事現場、仮囲いの中では着々と建築工事が進んでおり、間もなく 1 階の基礎の部分に取り掛かろうかというところです。近々、その様子をお伝えできるかと思います。

10 月号で書庫の移動作業をレポートしましたが、今回は約 17 万点の資料の大部分が保管されている収蔵庫の移動準備を紹介します。民具(民俗資料)、埋蔵文化財などの一部資料は館外の施設に保管されていますが、展示品だけでなく、貴重な美術品、自然史資料は館内の収蔵庫にあります。移動後に再収納するため、迷子にならぬように移動先の分野別収蔵庫の収納配置図を作り、準備をします。ここまでは本の場合と同様ですが、資料は簡単に段ボールに詰めることはできません。移動中の事故がないよう、専門業者が丹念な梱包作業を行っています(=写真)。

資料館の収蔵庫には普段、展示場にはないものもあります。現資料館での 20 年間のうちに一度は展示されていますが、展示期間が短かった脆弱な資料もあります。新しい施設では展示環境が格段に改善いたします。これで、資料、作品への負担を少なく、市民の皆さまに公開、観覧していただけるようになります。

資料の移転にともなう作業等のため、資料館のご利用にはご不便をおかけしますが、引き続き、ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

* 今年の「資料館 news」では、新施設の準備の様子をお伝えしています。

古文書解読会の会報 11号を刊行しました 「古文書を読もう」で厚木を知ろう

郷土資料館で、第2、3、4の木曜日に行われている「古文書解読会」。先般、この団体の会報「古文書を読もう」11号が刊行されました。4頁ではありますが、会員の「古文書を通して厚木を知ってもらいたい」という熱意が伝わってきます。会員で会報新編集長・森永ゆたかさんに紙面の紹介をしていただきました。

＊

この機会に私どもの会を紹介させていただきます。古文書解読会・学習会は平成12年より少人数の有志で活動を開始し、17年目の現在約30名の会に発展しました。日ごろの活動は、月2回郷土資料館が収蔵する古文書の解読を行い、他の1回は郷土の歴史などにかかわる学習会を行っています。

「楽しく、自分のペースで」を会のモットーとして、日ごろの活動を通して、今まで知らなかった新しいことを「知ることの喜び」を日々かみしめています。

会紙『古文書を読もう』は平成27年4月の創刊より平成29年夏号までに10号を発行してきました。10号を区切りとして「新しい革袋に新しいお酒を」と新たな内容も加えました。

新しい紙面は、こちらからの一方的な発信だけではなく、市民の皆様により近い「親しみやすい、読みやすい」紙面づくりを目指し、それと同時に、会の活動も単なる趣味で、自己満足だけで終わることなく、ここで学んだ成果を広く市民の皆様にもお知らせし、郷土の歴史、郷土愛をともに育ていければと考えています。

皆様からは時には忌憚のないご意見やご批判をいただき、さらによりよい紙面の作成を心がけていきたいと思います。



▲「古文書を読もう」の最新号(11号)

2017年 学芸員実習の感想 些細な業務の大切さを実感

郷土資料館では毎年、市内在住、在学中で学芸員を目指す大学生の実習受け入れを行っています。資料館で行われる講座、展示会の一部を体験することで、学校での座学とは違った学びをしていただきました。昨年の夏から秋、資料館で博物館実習を経験した学生にその感想を記してもらいました。

＊

6月24日～10月31日にかけて、博物館実習をさせていただきました。学芸員の仕事は、さまざまなことに幅広く対応しなければならないのが大変でしたが、非常に良い経験ができたというのが率直な感想です。

実習を受ける前に面接があり、簡単なテストがありました。資料移動に使うダンボールを組み立てるという非常にシンプルな作業でしたが、最初は何故こんなことをテストしたのかが理解できませんでした。とりあえず、普通に組み立てたところ、ガムテープの止め方が十字貼りではないと言われ、そもそも見本があったことにも気づかずに「観察眼が足りない」と指摘されました。つまり、この作業1つでも学芸員としての心構えが見られてしまう重要なものだったのです。このことから、自分の今までの取り組みがどれだけ雑であったかが分かり、情けなさを痛感しました。

学芸員という仕事はただ自分の専門分野を研究すればよいのではなく、データベースを作成したり、所蔵品を運んだりするという小さなことの積み重ねが大事なのだということを実感できました。以前に大学の先生から、ある美術館のインターンを勧められ、3～4ヶ月程度体験したことがあります。やはり、そこでもアンケートの集計やキャプション作成の手伝いなどをしました。

今回の実習を通して感じたことは、お客様に博物館・美術館を楽しんでもらうためにはどんな些細な業務も疎かにしてはいけないということでした。今後は大学院に進学し、様々な経験を積み、将来は誰からも信頼されるような学芸員になりたいと思っています。今回はその入口として貴重な体験ができました。

お忙しい中、実習を受け入れ指導していただいたことを感謝しています。本当にありがとうございました。



▲十字貼りの段ボール箱

帝京大学文学部史学科 4年
湯川 透

2018. 1月 郷土資料館カレンダー

日	曜日	行 事 内 容	実 施 場 所	時 間	対象等
4	木	ホール展示「あつぎ百科 昔の暮らし 昔の道具」 (~1月31日まで 1階 エントランスホール)		9:00~ 17:00	◎
11	木	古文書解読会	学 習 相 談 室	14:00~ 16:00	◎
15	月	伝えよう わらべうたあそび! *1月1日はお休みですので、ご注意ください。	学 習 相 談 室	10:00~ 15:00	◎
18	木	古文書解読会	学 習 相 談 室	14:00~ 16:00	◎
25	木	古文書学習会「和田家文書 村政・村況」を読む	学 習 相 談 室	14:00~ 16:00	◎



○申込み制

☆受講決定済みの方

◎参加自由



ホール展示「あつぎ百科 昔の暮らし、昔の道具」

■平成 30 年 1 月 31 日(水)まで 午前9時から午後5時

* 小学 3 年生の社会科教科書に登場する資料を中心に展示しています。

* 新しく寄贈していただいた資料も展示中です(写真下=手回し式洗濯機)。



《古民家岸邸 1月 の休館日》

1(月)~3(水)、9(火)、10(水)、
15(月)、16(火)、22(月)、23(火)、
29(月)、30(火)



(問い合わせ・申込み先)

厚木市郷土資料館

〒243-0003 厚木市寿町3-15-26

<http://www.city.atsugi.kanagawa.jp/>

046-225-2515

厚木市郷土資料館

news227

発行日：平成 30 年 1 月 1 日

編集：厚木市郷土資料館

発行：厚木市教育委員会